

活動終了報告書（要約）

採択年度	2024 年度
コード番号	24-A-041

団 体 名	被爆者証言の世界化ネットワーク	申請額
		1,200,000 円
		助成額(受領額)
事 業 名	国立広島原爆死没者追悼平和祈念館所蔵の被爆者証言ビデオの多言語翻訳	1,000,000 円
		事業地(国名)
		京都（日本）

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 * 300 字以内

私共は、核兵器の犠牲者の鎮魂と核兵器廃絶の目標に貢献する事を期して、京都外国語大学、筑波大学、横浜国立大学の教員が 2014 年 1 月 24 日に設立した市民団体です。主な活動としては、①国立広島原爆死没者追悼平和祈念館所蔵の被爆者証言ビデオに多言語で字幕を付して、被爆の実相を、日本国内のみならず世界各国の市民に伝える活動に携わっています。作成された字幕映像は、同館訪問者に対して、同館内で提供されると同時に、世界の市民に向けて、同館のサイトを介してネット配信されています。また、②祈念館との共同事業とは別に、独自サイト並びに SNS を介して、被爆の実相を伝える多様な作品、即ち、絵本・紙芝居・コミック等を多言語に翻訳して世界に発信する活動も行っています。③多言語字幕作成の活動自体を学校教育の中に翻訳作成授業として組み入れる試みを始めています。これは、主に海外での試みです。

■ 今回実施した活動の概要 * 400 字以内

①証言ビデオに多言語で字幕を付する活動に就いては、夫々のビデオに対して、ネイティブ・スピーカー、外国語に精通した日本人翻訳者、翻訳に客観的な評価・吟味を為し得る学識経験者の三者でチームを組みながら、一年間で約 10 本の作品を祈念館に納入する事ができました。2014 年以来では、15 種類の言語に就いて総計で約 250 本の作品を祈念館に納入してきました。②独自作品の作成に就いては、今回、人員不足が主な原因で、必ずしも十分な活動を行なうことができませんでしたが、日本被団協のノーベル賞受賞式に出席した人々の主張や活動取材して紹介する試みを行いました。③学校教育現場での翻訳作成授業に就いては、特にドイツのボン大学で翻訳授業を実施することができました。この活動は、ボン大学で、正式なヒロシマ・ナガサキ・プロジェクトとして位置付けて戴き、大学の正規授業として実施できました。④今回から、我々の作成した証言ビデオを使用して、被爆証言に対する認知度アンケートを英米仏の三カ国を対象に実施致しました。我々の活動の意義を客観的に検証する目的です。また、今後、アンケート実施自体を学校での翻訳授業に組み入れる事を考えています。

■ 成果 * 400 字以内

①に就いては、祈念館に納品できた作品が、活動の成果です。但し、祈念館側の態勢未整備の為に納入作品のネットへのアップが遅れています。②授賞式参加者の活動報告を市民運動団体の会報に載せました。但し、小規模なものです。③ボン大学での翻訳授業では、その成果を、祈念館に作品として納品致しました。尚、ボン大学では、学生の成果発表会が、大学の正式行事として、一般市民に公開する形で、実施されています。今回ではありませんが、現地のメディアによって報道もされました。④のアンケートに就いては、④毎日新聞の広島版、⑤京都新聞で報道されましたので、コピーして証拠資料として添付させて戴きます。

* 記載者へのお願い: 本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい(全体で 1100 字以内程)。